

# Europe Indicators

発表日: 2020年11月25日(水)

## 欧州経済指標コメント: 11月ドイツIfo企業景況感

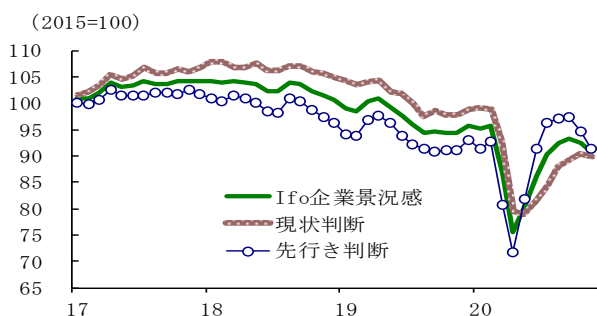
～景気再失速も製造業が下支え～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

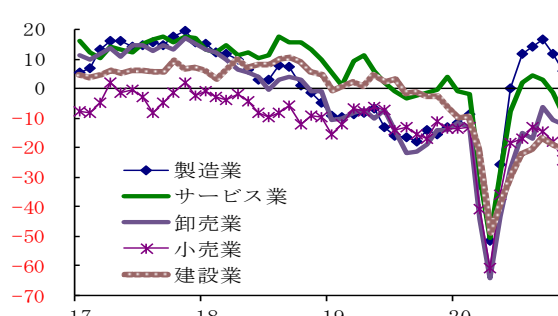
- 24日発表の11月のドイツのIfo企業景況感(2015年=100の指数)は2ヵ月連続で前月から低下した。内訳は先行き判断が2ヵ月連続で、現状判断が6ヵ月振りに落ち込んだ。3・4月の都市封鎖時の2ヵ月で20ポイント以上も低下した先行き指数は、都市封鎖の再開を受け、10・11月の2ヵ月で6ポイント弱の低下にとどまり、悪化のマグニチュードは第一波の3分の1未満。
- 業種別の業況判断(ゼロが好不況の分岐点)は、先行き判断が製造業(前月: +11.6→今月: +6.1)、サービス業(▲1.3→▲8.6)、卸売業(▲10.8→▲12.1)、小売業(▲18.2→▲24.2)、建設業(▲19.0→▲20.5)が揃って悪化。都市封鎖の再開による不透明感が業況の重石となった。他方、現状判断は、都市封鎖の影響が大きい小売業(+24.0→+13.9)とサービス業(+9.1→+2.6)が落ち込みを牽引したが、製造業(▲8.1→+0.9)が2月以来のプラス圏に浮上した。
- 製造業の業況改善とサービス業の業況不振は前日のPMIでも確認された通り。世界的な需要底入れを背景に製造業の業況が上向いている一方、都市封鎖再開の影響を受けるサービス業の業況が一段と冷え込んでいる。ドイツ政府は12月20日までの都市封鎖延長を近く決定するとみられ、こうした業種間の格差は当面継続しよう。ドイツとフランスの間で景況格差が広がっているが、これはドイツが製造業の比重が大きく、都市封鎖の度合いがフランスに比べて軽微なことが影響。

■ドイツ: Ifo企業景況感



出所: Ifo

■ドイツ: 業種別の先行きの業況判断



出所: Ifo

■ドイツ Ifo企業景況感

	2019				2020											
	4Q	1Q	2Q	3Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月			
企業景況感(総合)	94.9	92.5	80.7	91.9	86.6	75.4	80.4	86.2	90.2	92.4	93.2	92.5	90.7			
現状指数	98.1	96.9	79.9	87.2	92.9	79.4	78.9	81.4	84.5	87.9	89.2	90.4	90.0			
先行き指数	91.7	88.3	81.6	96.9	80.8	71.6	81.8	91.4	96.3	97.0	97.3	94.7	91.5			
業況判断	7.4	2.2	-23.7	0.9	-10.7	-35.2	-24.3	-11.5	-2.7	1.9	3.6	2.2	-1.6			
製造業	-6.6	-7.6	-33.3	-6.4	-17.2	-42.1	-34.7	-23.1	-12.7	-5.8	-0.7	1.5	3.5			
サービス業	18.2	9.5	-19.7	5.4	-6.9	-32.7	-20.4	-6.0	1.9	7.6	6.8	3.8	-3.1			
卸売業	-3.8	-6.2	-32.3	-6.6	-20.9	-46.3	-31.7	-18.8	-9.0	-9.4	-1.3	-1.9	-2.6			
小売業	3.5	-5.7	-28.2	1.3	-19.6	-50.9	-27.2	-6.5	-0.3	2.0	2.1	1.8	-6.1			
建設業	18.7	10.3	-11.9	0.3	5.1	-17.0	-11.7	-6.9	-2.2	-0.3	3.5	0.3	-0.1			

出所: Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

